子どもの貧困研究のフロンティア

＜第57回＞

定例学術研究会

開催のお知らせ

シングルマザーの「働いても貧困」 ―変わったこと、変わらないこと―



報告者：周　燕飛 先生

（日本女子大学 人間社会学部 現代社会学科 教授）

「働けば、貧困から抜け出せる」――。多くの先進国では概ねあてはまるものの、日本はその際立った例外です。シングルマザーの9割近くが働いていますが、それでも半数近くが相対的貧困の状態にあります。2003年に母子家庭支援が「福祉から就業・自立支援へ」と転換してから20年あまり。国は就業支援や養育費の確保に取り組み、近年は児童扶養手当も拡充してきました。こうした取り組みで、母子家庭の暮らしと子どもの育ちは何が変わり、何が変わらなかったのでしょうか。

2011年から続く「子育て世帯全国調査」のデータからその実態をひもとき、これから必要な支援を皆さんとともに考えます。

2026年12月10日（木）

18：30▸20：00

会場　**東京都立大学オープンユニバーシティ飯田橋キャンパス**

（東京都千代田区飯田橋３－５－１東京区政会館 ３階 ３５教室）

ハイブリッド開催（ZOOMにて同時開催）

お申込み・お問合せ

対面参加でのお申込はこちら

ZOOM参加でのお申込はこちら

東京都立大学子ども・若者貧困研究センター

E-mail:rccap@tmu.ac.jp

（主催）東京都立大学 子ども・若者貧困研究センター（共催）東京都立大学オープンユニバーシティ
（協力）公益財団法人 特別区協議会